

沖

特別企画展

展

絵画

版画

彫刻

グラフィックデザイン

書芸

写真

秋の美術展

沖展会員新作展
(美術の部)

ギャラリートーク

(沖展会員による作品解説会)

- ▶日時
平成27年
10.24(土) 10:15～
- ▶場所
読谷村立美術館

2015

10.24 **土**

11.29 **日**

主催 読谷村／読谷村教育委員会／沖縄タイムス社

後援 沖縄県・沖縄県教育委員会・琉球放送・琉球朝日放送・NHK沖縄放送局
エフエム沖縄・FMよみたん

開館時間 9:00AM - 5:00PM (入館は4:30PMまで) *但し10/24は10:15AM開館

休館 毎週月曜日・11/24 *11/3(文化の日)は特別開館

観覧料 歴史民俗資料館共通 一般200円(160円)・小中高生50円(40円)

* () は40名以上の団体割引料金

読谷村立美術館

〒904-0301 沖縄県読谷村字座喜味708-6 tel.098-958-2254

ごあいさつ

沖縄タイムス社 代表取締役社長 豊平 良孝

秋空高く爽やかな好季節を迎え、今年も特別企画展「秋の美術展・沖展会員新作展（美術の部）」を読谷村立美術館にて開催できますことを主催者として嬉しく思います。

同展覧会は、県内最大級の美術・工芸公募展「沖展」の功績を踏まえ、広く県民に鑑賞の機会を提供し、芸術文化の創造・発展の一助とすることを目的に2006年からスタートしました。

「沖展」は全12ジャンルの作品を一堂に展示しておりますが、この展覧会では、美術部門、工芸部門に分け、'06年(美術)、'07年(工芸)、'09年(美術)、'10年(工芸)、'12年(美術)、'13年(工芸)と交互に開催し、今回で7回目となります。

今年も美術部門の出品年となり、絵画、版画、彫刻、グラフィックデザイン、書芸、写真の6ジャンルから、会員の皆様が長年の研鑽で培ってきた確かな技法と多彩な表現力で創り上げた渾身の作品を一堂に展示します。春の沖展とは異なる趣きで、秋の実り深い時期に創作された作品を、ぜひ、読谷村の皆さまをはじめ、多くの方々にご鑑賞いただければ幸いです。

最後に、ご出品いただきました沖展美術部門の会員の皆さま、本展の開催にご理解とご協力を頂きました読谷村、読谷村教育委員会、読谷村立美術館ほか、関係各位に心から御礼申し上げあいさつと致します。



絵画 大城 譲／抗(あらがい)



彫刻 西村 直雄／どかな道

ごあいさつ

読谷村長 石嶺 傳實

芸術の秋にふさわしく、特別企画展「秋の美術展・沖展会員新作展」が開催できますことを嬉しく思います。

本村は、村づくりの基本理念に基づき「ゆたさある風水 優る^{ユタサアルフンシ マサル}チムダクル サチフクルハナヤ ガンジュウヌシマ 肝心 咲き誇る文化や 健康の村」と目標を掲げ、自然・風土・歴史を大事にしながらか文化芸術を振興し、心豊かに暮らすことのできる環境づくりを目指しております。

今回の特別企画展「秋の美術展・沖展会員新作展」は、美術の部といたしましては、平成18・21・24年度に続き四度目の開催になります。

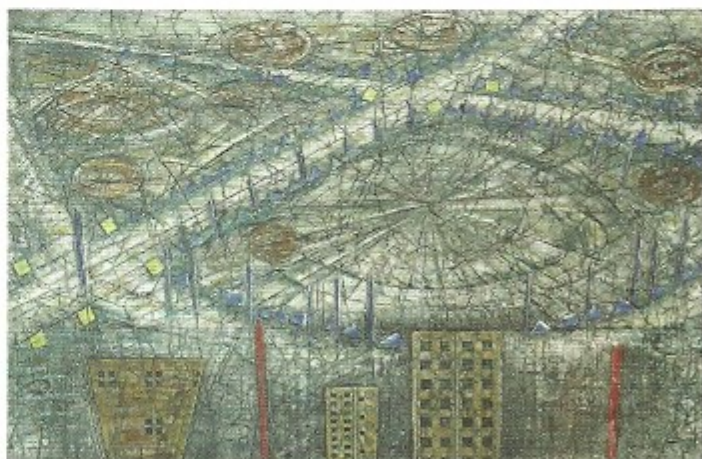
沖展のあゆみを拝見してみると、1949年に1回展を沖縄タイムス社創立と共に発足し、第3回から5回までは、アンデパンダン展（無審査制）として開催していますが、第6回からは審査制を復活しています。

発足当時は絵画部門のみだった『沖展』ですが、1951年から彫刻部門が登場、1954年に書芸部門及び工芸部門、1956年に写真部門、1963年には現在のグラフィックデザイン部門である商業美術部門が新設されています。1987年には版画部門が絵画部門から独立、更に2010年から工芸部門に木工芸が追加されて現在の7部門12ジャンルとなりました。また会員・準会員制が始まったのは1963年の第15回展からでした。戦後の沖縄において美術工芸の復興に大きくかかわり、その発展と後継者育成に貢献してきました『沖展』は今年の春で67回目を迎え、年々盛況を呈しております。

今日、人々の生活の中で芸術・文化の重要性が唱えられており、美術に寄せる関心も一段と高まりつつあります。美術は社会を写す鏡だともいわれています。質の高い作品に触れることによって、芸術や美の世界に対する関心を高め、豊かな感性が培われ新しい創造と発展の契機になり得れば幸いです。

この機会に、村民のみなさまを始め、多くの方々がご来館くださることを願っております。

最後に、今回の企画展を開催するにあたり、快く作品をご出品いただきました沖展会員の皆様、ご後援くださいました沖縄県、沖縄県教育委員会、マスコミ各社、並びに主催者としてご尽力くださいました沖縄タイムス社に対し深く感謝を申し上げますとともに、皆様の更なるご活躍を祈念申し上げごあいさつと致します。



版画 比嘉 良徳／景象'15-C-6

特別企画展【秋の美術展】に寄せて

彫刻部門 西村 貞雄



書 芸 長浜 和子/唐庚詩 春日郊外

「沖展」は1949年に沖縄美術展覧会としてスタートして、後に名称を変更して現在に至っている。美術と工芸の両面を網羅し、他府県にはない沖縄独自の総合美術工芸展として県民に広く親しまれてきている。今日まで継続してきた要因として、春休みの期間に公立学校の教室や体育館を展示施設として活用してきたことと、美術・工芸を重要な要素として偏ることなく発展させてきたこと等があげられる。現在、絵画・版画・彫刻・グラフィックデザイン・写真・書芸・陶芸・漆芸・染色・織物・ガラス・木工芸と12の部門にまで拡大した。それぞれの部門で表現が多様化した傾向もあって、規模が広がり展示する内容にも変化をもたらしている。

沖展は戦後の文化活動の一端として取り組まれてきた歴史があり、技術のみを重視するのではなく芸術を創作していく営みに視点が当てられている。

彫刻分野の立場から考えると、沖縄は彫刻する環境はもとより彫刻という概念すら無い世界であったが、近代彫刻というものに戦後いち早く取り組んだことが今日をもたらしたと言える。

このようなことから「沖展」という総合美術工芸展は展示施設がない状態の中で、運営の仕組みや展示方法に効果的な工夫を凝らし、創作活動として発展的に歩んできた。その時々々の沖縄の時代背景をもとに歴史性と地域性をも作り上げてきていると思われる。

春休みを利用しての「沖展」が浦添市民体育会館で開催されて久しいが、この時期は新緑の樹木が輝き、入学、入社など人の動きにも新しい息吹が感じられる。その中で作品を鑑賞するのも特別なものがある。沖展は移動展も開かれ他の地域（うるま市）にも波及効果を及ぼしている。

秋という季節感からだけではなく中部地域には爽やかな環境がある。2006年から沖展会員による特別企画展「秋の美術展」が読谷村・沖縄タイムス社共催で開催されている。この度美術部門が10月24日（土）～11月29日（日）にまたがって読谷村立美術館で開催されることは、浦添市民体育館での「沖展」とはまた違った境地を感じさせる。この時期の読谷村は、蝉の声があり物静かさが秋を感じさせる心地よい佇まいが随所に見られる。このような地域に美術館がある。その空間で作品を展示することは心を弾ませ、創作活動の糧にもなる。作品を展示するよい機会となる美術展である。



Hideyuki Chinen Watercolor Painting

グラフィックデザイン 知念 秀幸/original work



写 真 大城 信吉/鎮魂のジュリ馬祭り

特別企画展 秋の美術展

沖展会員新作展(美術の部)

出品者リスト

絵画

作家名	作品名
池原 優子	刻々
稲嶺 成祚	果物と白と黒の壺の静物
ウエチ ヒロ	時空を超えて
浦添 健	エイサーの人
大城 譲	抗(あらい)
大浜 英治	風景の中で
喜久村 徳男	赤い地平線 15-50
喜友名 朝紀	独特の造形と曼荼羅
金城 進	ヤへ岩
金城 幸也	まある さんかく しかく
具志堅 誓謹	浸食
佐久本 米子	相
城間 喜宏	断碑
新垣 正一	追憶「アラカチグワー」
砂川 喜代	青の痕跡
高島 彦志	南風の記憶2015
知念 秀幸	悠久/eternity
鎮西 公子	残光
中島 イソ子	自画像
比嘉 武史	交・景
宮里 昌信	fence
山内 盛博	視泉
屋良 朝春	名護の褶曲

版画

作家名	作品名
赤嶺 雅	「COLOR - 白の記憶」
比嘉 良徳	景象'15-C-6

彫刻

作家名	作品名
上原 隆昭	2015・作品Ⅲ
玉栄 広芳	M君の首
知念 良智	青の記憶-2015
富元 明雄	塔
西村 貞雄	のどかな道

グラフィックデザイン

作家名	作品名
ウチマ ヤスヒコ	作品 A-Ⅲf
岸本 一夫	地球生命体コーラルリーフ
知念 秀幸	original work
知念 仁志	KOBANZAME DAJARE ART EXHIBITION

書芸

作家名	作品名
東江 順子	一日の苦勞は一日にて足れり
安里 牧子	彫琢複朴
阿部 田鶴子	枕草子抄
新城 弘志	福以德招
運天 雅代	守拙歸園田
大城 武雄	千手院に頼全上人を訪らう
大城 稔	葱翠
我喜屋 明正	王守仁語
神山 律子	明日は明日の風が吹く
小杉 紘子	秋は来にけり
砂川 榮	清秋竹露深
茅原 善元	啐啄の機
渡名喜 清	漢詩 語句
豊平 信則	那覇を詠う俳句
名嘉 喜美	富士山
長浜 和子	唐庚詩 春日郊外
仲村 信男	狭骨禪心
仲本 清子	松
東恩納 安弘	陶詩句
比嘉 千鶴子	宮中楽
前田 賢二	羊・轍
眞喜屋 美佐	南龍語録より
盛島 高行	福慶
山城 篤男	老子の句
山城 美智子	花かあらぬか

写真

作家名	作品名
上地 キミ子	クスクス
大城 信吉	鎮魂のジュリ馬祭り
翁長 盛武	大漁
崎山 洋子	少女
島元 智	夕涼み
末吉 はじめ	暮し
前原 基男	勝ち鬨

◆京都・大学ミュージアム連携参加館

- 大谷大学博物館
- 京都外国語大学国際文化資料館
- 京都教育大学教育資料館まなびの森ミュージアム
- 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
- 京都嵯峨芸術大学附属博物館
- 京都産業大学ギャラリー
- 京都市立芸術大学芸術資料館
- 京都精華大学情報館・ギャラリーフロール
- 京造形芸術大学芸術館
- 京都大学総合博物館
- 同志社大学歴史資料館
- 佛敎大学宗教文化ミュージアム
- 立命館大学国際平和ミュージアム
- 立命館大学アート・リサーチセンター
- 龍谷大学龍谷ミュージアム



二つの王都

京と都 首里

大学は宝箱！
京都・大学ミュージアム連携
出開帳 in 沖縄

2015年
10月23日(金) ~ 11月23日(月祝)

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館

〒903-8602 沖縄県那覇市首里首里町1-4

開館時間: 10:00-17:00(入館は16:30まで)

ただし、11月3日(火・祝)は20:00まで

会期中無休・入場料無料

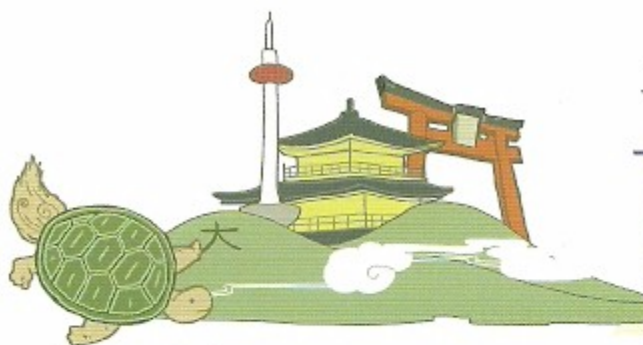
主催 京都・大学ミュージアム連携、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館
 共催 京都・大学ミュージアム連携参加校
 協力 沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立歴史文化財センター、那覇市立歴史博物館
 那覇市歴史博物館、京都大学大学院文学研究科
 後援 沖縄県教育委員会、沖縄県博物館協会、那覇市教育委員会
 企画 京都・大学ミュージアム連携合同展覧会実行委員会
 助成 京都・大学ミュージアム連携が核となる文化発信事業の継続と展開
 (平成27年度文化庁 地域活性化となる美術館・歴史博物館事業)

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2015

京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS





二つの王都 京都と首里

大学は宝箱！
京都・大学ミュージアム連携
出展展 in 沖縄



ごあいさつ

京都・大学ミュージアム連携は、2011年の発足以来、14大学の15ミュージアムが相互の活性化と京都からの文化発信を目指していくつかの活動を続けてきました。そのなかでも「大学は宝箱！」と呼んでいる一連の合同展覧会が最大のイベントです。2012年度にまずは京都で実施し、翌2013年度には九州産業大学美術館を会場に九州の4大学と連携して「出展展 in 博多」を、昨年2014年度には東北歴史博物館をお借りして東北の2大学と連携した「出展展 in 東北」を実施しました。

そして、今年沖縄県立芸術大学の全面的なご協力を得て「京都と首里：二つの王都—大学は宝箱！京都・大学ミュージアム連携出展展 in 沖縄—」が開催の運びとなりました。京都と首里というふたつの「都」の文化を、そして、すべての人が等しく祈念する「平和」をさまざまな美術工芸品、歴史資料類で示してゆく展覧会です。

今回の展覧会を機会に、大学ミュージアムの連携が、文化発信のさらに大きな動きに発展してゆくことをわたしたちは願っています。

この度、「京都・大学ミュージアム連携」との共同主催により「京都と首里：二つの王都—大学は宝箱！京都・大学ミュージアム連携出展展 in 沖縄—」を開催する運びとなりました。京都の14大学15館と当館の所蔵品合わせて190点余からなる画期的な合同展です。

本展は、京都の各大学ミュージアムが所蔵される多彩な「お宝」を琉球王都首里の地で出展展していただくと同時に、「鎌倉資料」を含む当館所蔵の重要資料を交えて、二つの王都「京都と首里」のもつ歴史的、文化的特性と関連性を比較鑑賞していただこうと願うものです。また、日頃あまり目にすることができない貴重な琉球関連資料が京都から出展されますことも望外の喜びであり、今後の大学ミュージアムの連携を予感させます。

最後になりますが、共同開催にお導きいただいた「京都・大学ミュージアム連携」諸館ならびに貴重な資料をご提供下さいました京都大学大学院文学研究科、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立埋蔵文化財センター、那覇市歴史博物館、那覇市立壺屋焼物博物館、そして開催にあたり多くのご協力を賜りました関係各位に衷り感謝申し上げます。

2015年10月

京都・大学ミュージアム連携運営委員会委員長
京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長
並木誠士

2015年10月

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館長
波多野泉



1. 琉球進貢船図屏風/京都大学総合博物館蔵
2. 琉球資料/京都大学大学院文学研究科蔵
3. 中川冬雄作/長刀鉾/京都職織芸術大学附属博物館蔵
4. 板倉早光筆/はなび綾香/京都市立芸術大学芸術資料館蔵
5. 打敷 花菱斗引回廊文様/大谷大学博物館蔵
6. 木簡流地流水鳥雲縹緗様紅型着物(部分)/沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館蔵

関連企画

シンポジウム「京都と首里」

日時：2015年10月23日(金) 18:00～20:00 (17:30開場)
会場：沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス一般教育棟3階大講義室

- 18:00 ご挨拶 波多野泉 (沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館長)
- 18:05 講演 麻生伸一 (沖縄県立芸術大学全学教育センター副所長)
- 18:35 講演 木立雅明 (立命館大学文学部教授)
- 19:05 講演 並木誠士 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長)
- 19:35 休憩
- 19:45 ディスカッション 司会：小林純子 (沖縄県立芸術大学美術工芸学部教授)

■お問合せ

【展覧会について】
沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館
(〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4)
TEL: 098-882-5038
FAX: 098-882-5068
E-mail: okigei-artmuseum@okigei.ac.jp
URL: http://www.lib.okigei.ac.jp/lib.html

【京都・大学ミュージアム連携について】
京都・大学ミュージアム連携運営委員会事務局
(〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎森上町
京都工芸繊維大学美術工芸資料館内)
TEL: 075-724-7924
FAX: 075-724-7920
E-mail: question-univ-museum-kyoto@kit.ac.jp
URL: http://univ-museum-kyoto.com

■アクセス

首里当蔵キャンパス (那覇市首里当蔵町1-4)



◎モノレール利用の場合
那覇空港駅より首里駅まで約27分
首里駅より徒歩約10分
首里駅よりタクシー利用で約3分

◎バス利用の場合
当蔵バス停下車徒歩1分
那覇バス系統：1番首里牧志線 17番石嶺(開南)線
46番糸満西原線 14番牧志開南鶴岡線
沖縄バス系統：8番首里城下町線

所蔵作品による小企画展

五葉描く 花図鑑

LUY GERANIUM

2015年11月6日[金]—

12月26日[土]



橋口五葉《ペゴニアほか》1904—10年頃

- 開館時間 / 9:30—18:00 (入館は17:30まで)
- 休館日 / 月曜日 (11月9日は開館。祝日の場合は翌平日)
- 観覧料 / 一般300円 高大生200円 小中生150円

※所蔵品展と共通、年間パスポートでもご覧いただけます。

鹿児島市立美術館

〒892-0853 鹿児島市城山町4-36

TEL: 099-224-3400 FAX: 099-224-3409

E-mail: bijutu@city.kagoshima.lg.jp

URL: <http://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/>





1.

所蔵品による小企画展

五葉描く 花図鑑



2.



3.

美人画で知られている橋口五葉 (1881 ~ 1921) ですが、その短い生涯にわたって描き続けた、もう一つの主要モチーフが植物でした。園芸を生涯の趣味とし、その美を絵画作品として描き留めています。そもそも画号も、鹿児島市樋之口町の自宅の庭の五葉松から取られており、植物への愛着ぶりがうかがえます。

19世紀末にヨーロッパを席卷した美術思潮アール・ヌーヴォーは、その名のとおり、新しい芸術を目指しました。過去のいかなる様式とも決別しようとしたため、おのずと自然に回帰することとなり、芸術家たちはそこから学び直そうとしました。また、世紀末は産業革命の時代でもありました。機械文明の恩恵にあずかりながらも、一方で人間を疎外しようとする巨大な力に反発した彼らは、やはり自然に立ち返ろうとしたのです。そんな自然の姿を最もシンボリックに表すものが植物でした。

アール・ヌーヴォーを日本で花開かせた立役者の一人が、橋口五葉です。洋行していない五葉にとって、夏目漱石などから見せてもらったヨーロッパの書籍や雑誌がその影響の源とも言われていますが、五葉がそのような新興運動にすぐさま反応できたのは、同時代の人間としての鋭敏な感性があったのは当然のこと、植物の生態についての知識やそれを描写する高い技術を、修得していた点が一因とも言えるでしょう。

モチーフそのものとして、あるいは背景として、膨大な植物図を描いた五葉ですが、実際に図鑑を編集する機会はありませんでした。そこで本展は、もし五葉が花図鑑を制作していたら、という想定のもと、当館の所蔵品の数々をお楽しみいただくという企画です。

装幀家としても名高い五葉のこと、どのような外観の図鑑ができていたかについては、ご観覧の皆様がそれぞれに想像していただければ幸いです。

□展覧会案内□

[同時開催] 冬の所蔵品展 (特集:カンディンスキーの《響き》) 2015.11.17 - 2016.1.3

自画像の世界 (会場: 谷山サザンホール) 2015.12.4 - 12.14

[次回開催] 小企画展「開館30周年記念 大所蔵品展」2016.1.5 - 2.7

□交通アクセス□

・カゴシマシティビューバス: 西郷銅像前下車徒歩1分 ・市電: 朝日通下車徒歩5分

・バス: 金生町下車徒歩5分・JR 鹿児島中央駅より車で10分・鹿児島北インターより車で20分

□駐車場□

7台 (美術館正面向かって右側の道路沿い)

※駐車台数に限りがありますので、なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

※黎明館、近代文学館・メルヘン館、市役所みなと大通り別館駐車場もご利用になれます。



1. 《帯紗図案花二十三種》(部分)

1915-16 頃

2. 《花の香をかぐ女》(絵はがき)

1905 年

3. 《百合》(部分) 1904-10 頃

4. 《流水に花と娘》 1903 年



4.

名嘉睦稔

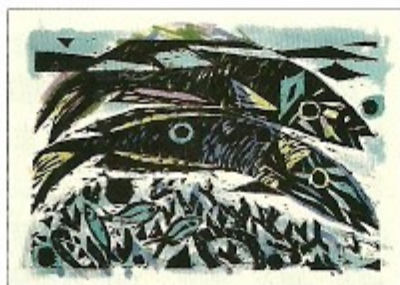
なかぼくねん

ともだち展

隣り合う別の色



「花苜」1997年



「2ばらのペラ」1990年



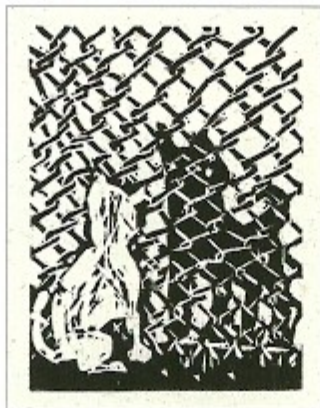
「オレまちがってないもん」2007年



「きみのために ほくのために」2010年



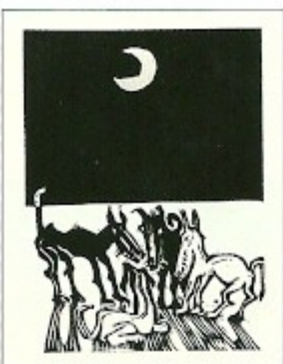
「森番」2008年



「通う」1998年



「小島」1996年



「よからぬ相談」2006年



お苗様シリーズ「なにになに?」2006年



「ともだち」1998年

2015年 **7.25(土)~11.23(月)**

7.21(火)~7.24(金)は展示替えのため休館します。

ボクネン美術館

名嘉睦稔 なかぼくねん

ともだち展

～隣り合う別の色～



「おはなし」2007年

2014年度ボクネン美術館お絵かきイベントにやってきた小さな女の子が言いました。「一緒にお絵かきするおともだちが、いたらいいのにな…」お母さまと妹さんの他に訪問者の居ない館内でした。うろろうとしてしばらくしたのち、落ちついてしっかりと彼女は絵を描いてくれました。ともだちって何でしょう。級友、親友、悪友、かたちは様々にあります。本「ともだち」展では、生きものの描かれた作品を展示しています。ボクネンの観察眼際立つ版画絵の中では、仲良しも喧嘩ばかりも悪巧みも仲間はずれも合唱も、みな、みずみずしく表現されています。ボクネンは言います。「色は隣り合う別の色があって初めて自らの色になり得る」と。多様な中でそれぞれの色が際立つ絵のように、本展において鑑賞者自身の際立つようなボクネン作品に、出会っていただけますように。

ボクネン美術館 学芸員 渡久地 未樹子

名嘉睦稔 なかぼくねん

版画家。1953年(昭和28)沖縄県伊是名島生まれ。97年「地球温暖化防止京都会議」の記念切手、および環境庁「Less CO2」キャンペーンポスターの原画制作。98年個展「地球環境と美の祭典」、2000年「九州・沖縄サミット」記念作品「万国津梁」シリーズなどのほか、国内外で展覧会を開催。ドキュメンタリー映画「地球交響曲第四番」(龍村仁監督)に出演。2007年、文化庁文化交流使に指名される。木版画集『BOKUNEN』『新選 名嘉睦稔木版画集』(阿部出版)など多数。



「地球交響曲」2000年



「大磯円環」1996年 186.0×1094.0cm

ボクネン美術館

〒904-0115 沖縄県中頭郡北谷町美浜 9-20 AKARA 2F(アメリカンビレッジ内)

TEL(098)926-2764 / FAX(098)989-4764

開館時間 / 11:00~20:00 [期間中無休/最終入館 19:30]

美術館観覧料

大人 800円 / 高校生以下 500円 / 未就学児(6歳未満) 無料

シニア 400円 / 団体割引: 20名以上で 20%OFF

<http://museum.bokunen.com>

